

2008 年度

科目名 ワークショップ論	対象学科・学年 人間人社1回生	担当者 中村 英一朗 村尾 敏彦
授業テーマ 実際に自分の身体と心を使って、楽しくワークショップの手法を学びながら、自分と社会についての新たな向き合い方を探る		
授業の概要と目標 人権をはじめ人生や世の中の様々な問題について必ず『正解』があるわけではないでしょう。また、教え込まれただけの正しい答えは、本当の意味で自分のものになっていないかもしれません。そのような中でこのワークショップ論では①体験する(参加者は相互に学び合う)、②振り返る(自分の気持ちを言語化し、相手の言葉を傾聴する)、③一般化する(体験を分析し概念化する)、④応用する(それを経験知・経験則まで高め、次への行動を考える)を通して、人間の成長につなげます。		
評価方法 授業毎に『振り返りシート』に記入してもらう。学期全体の自分の資料をもとに自己評価のレポートを提出してもらい、教員はそれを基に評価します。		
テキスト 特にテキストは使用しない	著者	出版社
参考書 必要があれば、その都度授業中に指示する	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. とにかく体験してみよう (自己紹介ゲーム・話し合うルール作り・聞くトレーニング) 2. ワークショップとは何か? 3. レスポンスゲーム (ひとからひとへ波のように伝わって...) 4. Back to Back (絵を描くワーク) 5. 粘土のワーク (ふたりで作ったら...) 6. カクテルパーティ : 気になることのジレンマ① 7. ジレンマの解決方法をさぐる②(ブレーンストーミングやダイヤモンドランキングを使って) 8. 差別・偏見について考える① (参加者はどんな人・三段論法の落とし穴) 9. 差別・偏見について考える② (多数派少数派・結婚の条件) 10. 差別・偏見について考える③ (目隠し散歩と心の写真・青い目茶色い目 [ビデオ]) 11. 貿易ゲーム① 12. 貿易ゲーム② (豊かさのランキング) 13. 貿易ゲーム③ (まとめと発表) 14. 宇宙船地球号の未来 15. 授業のまとめとディスカッション		
教室で椅子に座って講義に耳を傾ける形式の授業ではありません。心身を活動して体験する形式の授業なので、人数が多すぎるごとに授業として成立しません。そのため人数制限をします。授業履修できるのは、60名までです。		